

事務事業評価表（補助金等）

評価対象年度	平成 29 年度
1次評価日（主幹等）	30年3月31日
2次評価日（課長等）	30年3月31日

1 事業名	日本絹文化フォーラム負担金			事務事業コード	21315	
2 担当部課	部等	産業振興部	課等	ブランド推進室	担当者	小林 隆
3 事業概要	目的体系	基本目標	魅力と活力にかふれる、にぎわいのあるまち			
		政策	産業の振興	施策	商業の振興	
		事務事業	日本絹文化フォーラム負担金			
		予算科目	蚕糸業対策事業	業務委託	なし（直営）	
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし	
	根拠法令等	なし				

●事業の内容（D0）

4 補助等の内容		* 補助金、負担金、交付金の具体的な内容	
① 性質	負担金	② 期間	29 年度 ~ 年度
補助金の種別	イベント等補助	③ 対象	その他
④ 制度の内容	絹を使う立場の方たちが集い、絹に関わる現状や最先端の情報等の情報交換の場として位置付けた日本絹文化フォーラムを開催する。フォーラムを主催する実行委員会に対して負担金を支出する。29年度第1回目。		
⑤ 積算方法	フォーラムの開催にかかる費用の一部を負担する。		
⑥ 期待される効果（最終的な意図）	岡谷市の歴史や絹産業の取り組みを全国のシルク愛好者に知っていただく岡谷ブランドの発展に寄与するものである。		

5 補助等の実績

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 件数（件）				
予算件数	0	0	1	1
実際の支出件数	0	0	1	
執行率	-	-	100.0%	
② 金額（円）				
予算額	0	0	100,000	100,000
財源				
一般財源	0	0	100,000	100,000
内訳				
特定財源	0	0	0	0
* 特定財源（負担割合）の説明				
実際の支出金額	0	0	100,000	
予算執行率	-	-	100.0%	
支出額の前年度比		-	-	

③ 29年度の交付先

日本絹文化フォーラム実行委員会（構成：シルク文化協会・岡谷市・蚕糸懇話会・岡谷商工会議所・岡谷近代化産業遺産を伝える会・(株)宮坂製糸所・岡谷絹工房）

●事業の評価 (CHECK)

6 妥当性評価		*妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。		妥当性 (1次判定)	
評価項目		はい	いいえ		
①	現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1		5 4	
②	補助等の効果は広く市民に還元され、特定団体の既得権益にはなっていない。		0		
③	全ての対象者に交付している。	1			
④	補助等の基準を明確に定め、市民に周知している。	1			
⑤	社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、補助等の内容に反映している。	1			
⑥～⑩は、補助金の対象が特定の団体に限定される場合に回答		妥当性 (2次判定)		高い	
⑥	補助対象団体では構成員に会費負担を求めており、自主財源を確保している。	1		5 9	
⑦	補助対象団体の会計において、市の補助額を上回る繰越額は生じていない。	1			
⑧	補助対象団体の事務局は独立しており、市は事務的な支援を行っていない。	1			
⑨	補助対象団体の事業実績、決算状況を把握している。	1			
⑩	補助対象団体が補助金を目的どおり使用したか、使途を検証している。	1			

7 有効性評価		*有効性=成果指標 (項目7/住民の満足度) が向上しているか。		有効性 標準	
評価項目		はい	いいえ		
①	この補助金等が属する施策において、この補助金等の優先度が高い。	1			
②	補助等の目的が未達成で、今後も継続することで成果が向上する余地がある。	1			
③	他の方法と比べて、現金を直接給付する方法が最も効果的で低コストである。	1			
④	補助団体等において、市が補助等を行った目的が達成された。	1			
⑤	この事業の利用者が増加した。	補助・交付件数	前年度比	-	

●改善の内容 (ACTION)

8 具体的な課題と改善	
課題	(補助等の制度を有効に活用する上で、現在課題になっていること) 元気づくり支援金も活用し運営しているため、助成金打ち切り後の自主財源確保が課題。
	(上記の課題をふまえて31年度以降に実施する、具体的な改善の内容) 広告料の増収または参加者への負担。
改善方法	
改善開始時期	平成30年4月～

●次年度の計画 (PLAN)

9 次年度の方針	継続して実施
----------	--------